

社会性を育む話合いの流れ

具体的な実践例では？

「ドッジボール集会をしよう」

運動を苦手と感じている子の気持ちをくみ、「苦手に思っている子がいるから、アイデアを出し合って、みんなが活躍できるようにしよう」といった話合いへの切実感を高めます。

ドッジボールを苦手と感じている子がどれぐらいいるのか事前に調査し、数値化したものを示したり、どのような点を不安に感じているかなどを子どもたちに伝えたりします。

例えば、このドッジボール大会を通して自分はこのような気持ちで参加したいなど、集会のねらいに沿った自己決定をするよう働きかけます。

活動の途中に、自分が考えた自己決定のカードを見直したり、後半の活動に対してもう一度考え直したりする時間を設けます。
*順調に活動が進んでいる場合には見直しタイムをあえて設ける必要はありません。

事前

- ①交流の内容を明らかにします。
- ②交流への意欲を高めます。
- ③ねらいの意識付けを図ります。

本時の話合い

- ①提案とその理由を説明します。
- ②反対意見など異なる意見も提示します。
- ③異なる立場を発表し合います。
- ④互いに質問し、新たな提案を考えます。
- ⑤集団決定します。

話合い後の指導

- ①話合いの振り返りをします。
- ②参加の仕方を自己決定します。
- ③ふりかえりプリントⅠを実施します。

事後

- ①活動の流れ、ねらいを確認します。
- ②実践活動を進めます。
- ③見直しタイムをとります。
- ④ふりかえりプリントⅡを実施します。

特別活動の果たす役割は…

名古屋市特別活動研究会委員長
三輪 康裕

友達とかかわることができない子どもが年々増えている現状から、子どもに社会性を育てることが求められています。

この社会性は、全ての教育活動の中で育てていくものですが、その中でも特別活動の果たす役割は大きいと考えます。

学級や学年、全校など、様々な集団の中で、子どもたちが目標の実現に向かって、みんなで話し合い、役割を分担して取り組んでいく。その結果、「みんなで目標を達成できた」という大きな喜びと人とかかわり合うことの大切さを実感することができ、その積み重ねが子どもの社会性へとつながっていきます。

今後も、研究会では、全市の先生方の参考になるような質の高い実践を目指して取り組んでいきたいと思ひます。

社会性を育む学級活動の創造

わたしたち特別活動実践研・開発部では、学級活動において社会性を育むための研究を進めてきました。

学級活動の話合いにおいて、右のように進めてみてはいかがでしょうか？みなさんのヒントになれば！

ふりかえり プリントⅠ（話し合い）

小学校 年 組 番 男・女 名前

この「ふりかえりプリント」は、みんなと話し合いをしているときの、あなたの考えや気持ちについてふりかえるものです。せいぜいにはかんけいがないので、ありのままに答えてください。そう思う、わりとそう思う、すこしそう思う、そう思わない の中から1つだけ、えらんで、○をつけてください。

し つ も ん	おもしろい	たのしみ	おもしろ	おもしろ
1 話し合いが終わるまで、みんなの話をしんげんに聞くことができた。				
2 めあてのことを考えながら、みんなの話を聞くことができた。				
3 みんなの意見のちがいを、注意して聞くことができた。				
4 自分の考えを発表することができた。				
5 たずねてみたいことを、しつもんすることができた。				
6 みんなに分かってもらえるように話すことができた。				
7 みんなが、大切に思うことは、一人一人がうかがった。				

詳しくは、なごやとっかつホームページを（ふりかえりプリントもダウンロードできます）

検索

名古屋市 特別活動 研究協議会

1月28日（金）の研究協議会で発表された、小2と中3の実践内容の一部を、少しですが紹介します。

実践の詳細は「平成22年度名古屋市特別活動研究会 研究協議会 -社会性を培う特別活動- 発表要項」をご覧ください。（各校に配布されております。表紙が水色の冊子です。）

【実践①】 ～苗代小、早川 智先生の思い～

対象：小2

学級みんなで一緒に活動する喜びを味わわせたい

そのために、集会を計画する話合いがしたいな...

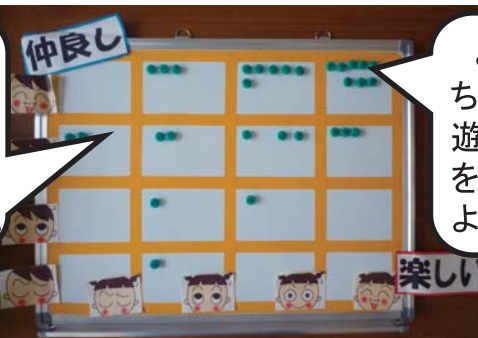
しかし！
【実態】

本学級の小2の子どもたちには、まだ幼児期の自己中心性が残っていて、仲間の気持ちを大切にすることや、よりよい学級を築こうとする自主性は、まだ十分育っていない...

そこで！
【工夫】

みんなの考えが分かる評価ボードを使い、話合い前に、一人一人の立場や考えの違いを確かめよう。

あれ、楽しくないと思っている人がいるよ。どうすればこの人も楽しくなるかな。



みんながこっちになるように、遊びのルールを話し合ってみようよ！

続きは、発表要項を...

【実践②】 ～守山北中、二階堂 聡先生の思い～

対象：中3

級友同士のかかわりを深め、積極的に活動させたい

中学校最後の1年、みんなで学級をつくり上げてほしいな...

しかし！
【実態】

これまでの人間関係にばかり目が向き、特定の友人以外とはかかわろうとしない生徒が多い。また、話合いや学校行事の取り組みなどに対して、消極的な生徒も見られる...

そこで！
【工夫】

朝や帰り等、日常の中に話合いや認め合いの場面を設定し、受容的な学級の雰囲気づくりをしよう。

今回は、修学旅行でがんばったことを話し合おう。

そうね、みんながんばったよね。



分散学習で、時間に気を配って行動することができたと思うよ。

詳しくは、発表要項を...

◆指導・助言より◆

「先生に仕事を頼まれたときの子どものうれしい気持ちを大切に。手間を惜しまず、エネルギーをかけて、実践に取り組んでください。」
教育センター指導主事 関川俊之先生

「子どもたちの声を基にして、教師の指導の下に進めているところがよい。学校をよくするために、今こそ特活に取り組んでください。」
指導室指導主事 沼部達也先生